

D N P

大日本印刷(株) (本社：東京都新宿区、社長：北島義俊氏、以下・DNP)は、活版印刷の風合いを再現したオリジナル書体「秀英体」の「にじみフォント」を(株)モリサワ

モリサワにライセンス提供

オリジナル書体「秀英体」「にじみフォント」

(本社：大阪府大阪市、社長：森澤彰彦氏)にライセンス提供した。モリサワは「秀英にじみ明朝L」をDTP用のフォント製品として今年に販売するほか、Webフォントサービスでも提供する。モリサワは、2009年からDNPのライセンスに基づいて秀英体フォントを順次発売しており、今回、その第7弾として1書体を追加して計22書体となる。

【書体の仕様と販売方法】
◎秀英にじみ明朝L (細)

活字が紙に押し付けられることでインクがにじみ、文字が自然に太くなるという活版印刷の風合いをデジタルフォントで再現した書体。活版印刷に見られる活字の自然なゆらぎやにじみを分析し、その結果を「にじみ効果」として文字の線画に施した。書籍の本文やポスターの見出し等での利用を想定して調整したことによって、「秀英明朝L」よりも太く、柔らかい印象を与える。

またスマートフォンやタブレット端末などのデジタル機器に表示された際のちらつきが抑えられるため、眼にやさしく読みやすい書体。紙とインクの質感を思わせ、やわらかな表情を持たせることができたため、和菓子等の包装、工芸品やハンドメイド商品の広告など、日本の伝統や美、レトロ感の演出に最適な書体。

◎販売方法
モリサワのフォント製品「MORI SAWA PASSPORT」(MORISAWA PASSPORT ONE)「MORISAWA PASSPORT アカデミック版」、「MORISAWA Font Select Pack 1 / 3 / 5 / P

LUS)として販売するほか、モリサワのクラウドフォントサービス「TypeSquare」でも提供。
【秀英体】
秀英体はDNPが明治時代から開発を続けているオリジナルの書体。優美でしなやかな線画を持ち美しく読みやすい書体として多く

の書籍や辞典に使われるなど、編集者やデザイナーだけでなく、読者からも親しまれてきた。DNPは2006年から「秀英体」をよりオープンなデジタル環境で活用するためのリニューアル事業「平成の大改刻 (注)」に取り組む、2009年からはDTP (Desk Top Publishing) 環境のほか、電子書籍ビューアーやワープロソフト等にライセンス提供するなど、その

利用範囲を広げている。
(※) 詳細はhttp://www.dnp.co.jp/shueitai/
(注) 平成の大改刻＝DNPは2006年に創業130周年の周年事業の一環として、秀英細・中・太明朝の改訂、金属活字時代の秀英初号明朝のデジタルフォント化、新書体である角ゴシックや丸ゴシックのデジタルフォント開発などを行った。この取り組みは21世紀のデジタルコミュニケーションを支える情報流通基盤を進展させることを目的に、高品位な書体の価値を再構築することを理念として実施。

DNPは「知とコミュニケーション」「食とヘルスケア」「住まいとモビリティ」「環境とエネルギー」を事業の成長領域と位置づけ、新しい価値の創出に取り組んでいる。デジタルサイネージをはじめとする情報メディアによる生活者の利便性向上とともに、暮らしのさまざまなシーンでの快適なコミュニケーションを実現するサービスや、企業の業績拡大に貢献するソリューションを提供していく。

可能にしていく。

アニメ制作会社などの「コエ」のビジネスユーザーには、登録されている膨大な「コエ」の中からニーズに合ったものを見つけてコンテンツ制作に利用できるようにする。またSNS運営会社などのサービスプロバイダーには「コエステーション」を活用した音声合成APIや組み込みソフトウェアを使用できるようにし、「コエ」を活用した新しいサービスを展開できるようにしていく。

本サービスの市場投入にあたっては、声主の権利を保護し、適切に利用されるための仕組みづくりや高度の犯罪対策が必要であり、同社はエンターテインメント業界やメディア業界に多くの人材を派遣し著作権、コンテンツの管理・流通に強みを持つクリーク・アンド・リバー社と共同で、事業化に向けた課題に対応していく。

同社は「コエステーション」の市場投入を通じてテキストから新しい音声コミュニケーションへのパラダイムシフトにいち早く対応、さまざまな場面で声を自由に使える新しい音声文化の醸成を目指す。
▶(株)クリーク・アンド・リバー社＝映像・ゲーム・Webなどのクリエイターから、建築・ファッション・食・学術分野のプロフェッショナルに特化したエージェント、プロデュース、ライツマネジメント事業を行う。同事業を医療・IT・法曹・会計の10分野に拡大し、22万人以上のプロフェッショナルと約2万社のクライアントを無限に組み合わせ、国内14拠点・海外4拠点を展開している。

次代を拓く最新技術

理想科学工業

理想科学工業(株) (本社：東京都港区芝5丁目34番7号、田町センタービル、代表取締役社長：羽山明氏)は、高速デジタル印刷機「リソグラフ」の新製品として2シリーズ・全6機種を、10月17日から発売する。

新製品は、2ドラム内蔵のデジタル印刷機MEシリーズの後継機「RISOGRAPH MFシリーズ」4機種と、1ドラム内蔵のデジタル印刷機の上位モデルSEシリーズの後継機「RISOGRAPH SF939G/939」2機種。

▶リソグラフMF935W (2色機) ▶リソグラフSF939G (1色機) ▶リソグラフMF935W (2色機) ▶リソグラフSF939G (1色機)

新製品2シリーズはベースエンジンをリニューアルし、デザインも一新。デジタル印刷機の上位モデルとして基本性能を進化させ、画像品質と使いやすさを大幅に向上した。

消耗品であるインクは、環境配慮と共にインク品質を向上する米ぬか油を使用したライスイングをカラーインク全22色に新展開。昨年新開発したライスイングは黒色のみだったが、カラーインクにも採用した。

業界最速の高速プリント

「リソグラフMFシリーズ」の上位モデル「リソグラフMF935W」は、2色プリントに加えてA3サイズまでの高速両面プリントが可能。同シリーズはカラーの紙原稿からの2色分版機能を強化。カラーキャナーの搭載により原稿の色を読み取り、精度の高い分版が可能になった。さらに大型カラー液晶タッチパネル上で仕上がりプレビューがわかりやすく確認でき、従来よりも手軽に2色印刷が行える。

「リソグラフSF939G/939」は、高速プリントモードを搭載。安定した高速搬送技術により、毎分最高190枚で業界最速のプリントスピードを3年ぶりに更新した。また最上位モデル「リソグラフSF939G」は、高速プリントによる高い生産性を発揮するのに役立つ便利な機能を搭載。従来はオプションだった両面原稿に対応した複数枚の原稿をスピーディーに読み込む「原稿自動送り装置」、用紙サイズに合わせてフェンスを自動調整する「オートフェンス排紙台」、読み込んだ原稿にタッチパネル上でさまざまな編集を加えることができる「ソフトデジタイザ」を標準搭載。

【新製品の主な特長】
①簡単、手軽な2色プリントが可能
②業界最速190枚/分の高速プリントを実現
③紙原稿からのプリントも繊細に美しく再現
④紙原稿からのプリントも繊細に美しく再現
⑤視認性に優れた大型カラー液晶タッチパネルを搭載
⑥米ぬか油を使用したライスイングをカラーに新展開

（注1）2色以上で作成された写真を含まない原稿に適している。
（注2）ドラム内部の温度が15°C以上。2017年7月現在販売のオフィス用デジタル印刷機において、業界最速（同社調べ）。
（注3）「リソグラフMF635/625」の書き込み解像度は300dpi×600dpi。
（注4）プリンターによっては対応しない場合がある。

能（「リソグラフMFシリーズ」）
「リソグラフMFシリーズ」はカラーの紙原稿（注1）からの分版機能を向上した。カラーキャナーの搭載により、あらかじめ色分けした原稿を用意せずに、2色プリントを簡単にできる。

また新たな分版方法として赤色分版、青色分版、緑色分版、寒色暖色分版、有彩無彩分版の5種類を搭載した。大型カラー液晶タッチパネル上にプレビューされるため、原稿のイメージにあった最適な分版方法を手軽に選ぶことができる。

②業界最速190枚/分の高速プリントを実現（「リソグラフSF939G/939」）

「リソグラフSF939G/939」は、毎分190枚（注2）の高速プリントが可能。業界最速（注2）を更新し、会議資料、教材、チラシなどの大量プリント時の生産性をさらに向上した。

③紙原稿からのプリントも繊細に美しく再現（2シリーズ共通）

カラーキャナーと新画像処理技術により、紙原稿からのプリントを美しく再現できる。写真画像の明るい部分の白とび軽減と階調

表現幅の拡張により、黒つぶれを軽減し、より滑らかで立体感のあるプリントが可能にした。また読み込み・書き込み解像度ともに600dpi（注3）のデバイスを搭載し、きめ細やかでコントラストのあ

るプリントが可能になった。④紙原稿による高品質プリントが可能
「紙メモリープリント」機能を新搭載（2シリーズ共通）

パソコンで作成した原稿データを、「紙メモリー原稿」としてLBP等で紙に出力（注4）。出力した「紙メモリー原稿」をリソグラフで読み取り、パソコンからのダイレクト出力同様に高画質な画像がプリントできる。

ネットワークにリソグラフを接続できない環境やセキュリティの都合でUSBメモリーを利用できない場合でも、鮮明なプリントが可能。
⑤視認性に優れた大型カラー液晶タッチパネルを搭載（2シリーズ共通）
⑥米ぬか油を使用したライスイングをカラーに新展開（2シリーズ共通）

（注1）2色以上で作成された写真を含まない原稿に適している。
（注2）ドラム内部の温度が15°C以上。2017年7月現在販売のオフィス用デジタル印刷機において、業界最速（同社調べ）。
（注3）「リソグラフMF635/625」の書き込み解像度は300dpi×600dpi。
（注4）プリンターによっては対応しない場合がある。

で市場へ投入。近年では精密断裁に欠かせない特殊なオプション装置、自動断裁システム機、フリップレスデータを活かすコンピュータなど、時代のニーズに応える製品開発に注力している。

EU域外への輸出を含めた今日までの総出荷台数は15万台以上に上り、世界170カ国に配した200カ所の販売・サービス拠点から顧客サポートを行っている。

国内第1号となるPOLAR断裁機が輸入販売されたのは1955年、



POLAR MOHR
POLAR断裁機が日本に初めて上陸してから65年、ハイデルベルグ・ジャパン(株)では、今年8月よりアナバーサーモデルに限定した特別キャンペーンを実施している。

グラフテック

グラフテック(株) (本社：神奈川県横浜市、代表取締役社長：佐々木秀吉氏)は、9月よりカッティングプロッター「CE6000-40PLUS」に、自動給排紙ユニット「F-1MARK」を組み合わせた、オートシートフィーダーカッター「CE6000-ASF」の販売を開始する。「F-1MARK」はイタリアのATS Digital社が開発し、欧州を中心に販売されている製品。

今回グラフテック(株)はATS

ラベルの後加工自動化

オートシートフィーダー登場

Digital社より「F-1MARK」の全世界での独占販売権（一部地域を除く）を取得した。デジタル化の進むプリントオンデマンド市場へ、後加工を手軽に行えるカッティングプロッターの普及を強化し、市場の活性化と拡大を図りたいと考えている。

今回発売する「CE6000-ASF」は、CE6000シリーズ（年間2万台を販売）の最新モデルとして世界市場で好評の400mm幅グリッドローリング式カッティングプロッター「CE6000-40 PLUS」に、シート状メディアを自動連続給紙するオートシートフィーダーユニット「F-1MARK」を加えたシステム商品。

ラベル用紙、厚紙、アイロンプリントフィルム等のシートメディアの加工において、最大200枚までの自動給紙・自動加工を可能とし、生産性と作業効率の向上を実現する。プリント&カットを始めとした印刷業において求められ

る短納期、業務効率化に最適な高性能カッティングシステムとして活用できる。

カットの位置合わせには、固定式のCCDカメラと専用のクロップマークを使用し、高速化を実現した。また最大で幅350mm×長さ500mmまでのメディアをセット可能なため、A3ノビ、SRA3、A3、A4といった幅広い定型サイズに対応しており、プリンターで印刷したメディアをそのままカットすることが可能。

加えてアドビシステムズ社の「Illustrator」に対応した専用ソフトウェアを標準付属しているため、商品購入からすぐに使用できる。

今後、グラフテック(株)は、シール・ラベル市場をはじめとした印刷市場における後加工分野での生産性の向上と製造業、店舗、オフィス市場におけるカッティングプロッターのさらなる用途の拡大を図っていく。

【主な特長】
(1)オートシートフィーダーによる連続加工
幅350mm×長さ500mmまでのメディアをセットでき、カット速度600mm/秒といった優れた基本性能により、ラベル用紙をはじめとしたシートメディアの高速、高品質のカットを連続して行うことができ、高い生産性を実現した。さらにハーフカットに加えてミシン目カットも可能なため、ラベル、POP等の用途でも活用できる。 (3)CCDカメラによる高速位置合わせ

モリサワ

(株)モリサワ (代表取締役社長：

＜2017年新書体＞

ヒラギノフォント6書体提供

森澤彰彦氏、本社：大阪市浪速区敷津東2-6-25)は、(株)SCREENグラフィックソリューションズ(社長：馬場恒夫氏、本社：京都市上京区堀川通寺之内上る4丁目天神北町1-1)の「ヒラギノ角ゴProN」4書体（文字セット＝Adobe-Japan1-5）、「ヒラギノ角ゴ繁体中文」2書体を2017年新書体として提供する。「ヒラギノ角ゴ」は「ヒラギノ明朝」との組み合わせを意識してデザインされた角ゴシック体。やや大きめの字面に対し

豊かな文字の世界へのパスポート
豊かな文字の世界へのパスポート
豊かな文字の世界へのパスポート
豊かな文字の世界へのパスポート

「ヒラギノ角ゴ」は「ヒラギノ明朝」との組み合わせを意識してデザインされた角ゴシック体。やや大きめの字面に対し、現代の明るさを残しつつも、オーソドックスな印象を与える書体。雑誌やパンフレット、ポスターなどあらゆる媒体で本文から見

IAをセットでき、A3ノビ、SRA3、A3、A4サイズに対応している。またオプションの「給紙部長スライダ」の使用により、最大長さ700mmまで対応。幅広いサイズのシートメディアの連続加工を行える。

これまでシートメディアの連続加工には、カッティングプロッターに用紙一枚ずつをセットするため、オペレーターが必要だった。CE6000-ASFでは、指定した加工枚数分のメディアを、用紙カセットから一枚ずつ自動で給紙される。これによりオペレーターがカッティングプロッターの操作以外

の作業工数の低減に寄与する。

最大積載メディア厚35mm以下、または最大枚数200枚までの出力が可能。
(2)CE6000-40 PLUSによるハーフカット、ミシン目カットに対応
カッター部は既にグローバル市場で高い評価を得ているCE6000-40 PLUSを採用。

カット圧450gf、カット速度600mm/秒といった優れた基本性能により、ラベル用紙をはじめとしたシートメディアの高速、高品質のカットを連続して行うことができ、高い生産性を実現した。

さらにハーフカットに加えてミシン目カットも可能なため、ラベル、POP等の用途でも活用できる。(3)CCDカメラによる高速位置合わせ

カットの位置合わせには、固定式のCCDカメラと専用のクロップマークを使用し、高速化を実現した。また最大で幅350mm×長さ500mmまでのメディアをセット可能なため、A3ノビ、SRA3、A3、A4といった幅広い定型サイズに対応しており、プリンターで印刷したメディアをそのままカットすることが可能。

加えてアドビシステムズ社の「Illustrator」に対応した専用ソフトウェアを標準付属しているため、商品購入からすぐに使用できる。

カット圧、カット速度、ミシン目カットの長さ等のカット条件の設定に加え、カット位置の調整を行うことができ、顧客の既存のデザイン環境を変更せずにプリント&カットを行える。

【価格】
「CE6000-ASF」=91万5840円（税込み）
「F-1MARK」=75万6000円（税込み）

しまで幅広く活用できるように設計されている。2017年の新書体提供では、文字セットをAdobe-Japan1-5に拡張して提供される。「ヒラギノ角ゴ」繁体中文は、和文書体「ヒラギノ角ゴ」のデザインを踏襲した、ゴシック体の繁体中文。

台湾、香港、マカオで使用される繁体字を現代的なデザインの書体として仕上げている。和文書体

豊富な文字の世界へのパスポート
豊富な文字の世界へのパスポート
豊富な文字の世界へのパスポート
豊富な文字の世界へのパスポート

「ヒラギノ角ゴ」は「ヒラギノ明朝」との組み合わせを意識してデザインされた角ゴシック体。やや大きめの字面に対し、現代の明るさを残しつつも、オーソドックスな印象を与える書体。雑誌やパンフレット、ポスターなどあらゆる媒体で本文から見

これまで組込み向けに販売されていた書体を、初めてフォント製品として提供する。対象製品＝MORISAWA PASSPORT 製品
提供時期＝2017年秋

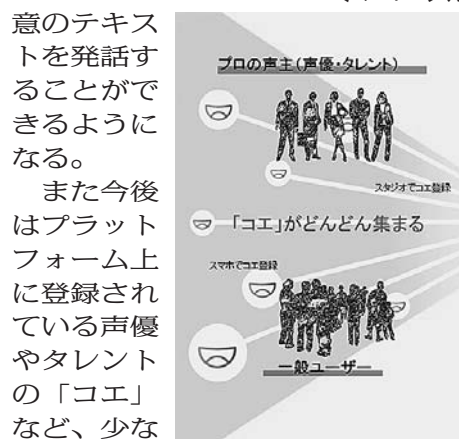
東芝デジタルソリューションズ

東芝デジタルソリューションズ(株) (本社：神奈川県川崎市幸区堀川町72番地34、代表取締役社長：錦織弘信氏)は、東芝コミュニケーションAI「RECAIUS (リカイアス)」の音声合成技術を活用した「声」のプラットフォーム「コエステーション」(β版)を開発した。本サービスは声を使っ

「声」を収集・蓄積・提供

コエステーション(β版)開発

いたい人と使いたい人をつなぐためのプラットフォームであり、本年の事業化を予定している。一般ユーザーのほか、エンターテインメント業界やメディア業界などにも本サービスを展開するため、(株)クリーク・アンド・リバー社と戦略的な協業関係を構築することに合意し、契約を締結した。「コエステーション」の一般ユーザーは、スマートフォンのアプリを使用し、指定の文章を読み上げて声の特徴を学習させることで、自分の声の分身である「コエ」を生成する。SNSやゲームなどさまざまな場面で、この「コエ」を使い、任意のテキストを発話することができるようになる。また今後はプラットフォーム上に登録されている声優やタレントの「コエ」など、少



な声優の選択肢を増やすことで、音声コミュニケーションに幅を広げることが可能になる。同社は「コエステーション」のビジネス向けの仕組みづくりを進め、声優やタレントなどプロの声の提供元(声主)には、録音では対応しきれない新しい商品・サービスに「コエ」を活用することを

ポラー社

断裁機の世界的メーカーであるPOLAR-Mohr機械販売会社(本社：独ホフハイム・タウヌス市、代表：Markus Rall博士、以下・ポラー社)は、今年9月24日に創立111周年を迎える。これを記念し、ポラー社では「111周年記念エンブレム」を配したアナバーサーモデル

創立111周年記念キャンペーン実施

アナバーサーモデル 期間限定生産

サーモデルを2017年4月から12月の期間限定で生産し、日本市場にも出荷する。ポラー社の歴史は1906年9月24日に誕生した工作機械メーカー「アドルフモーア機械製造」から始まる。第二次世界大戦後の1946年、西ドイツ印刷業界復興の一環を担うべく、紙工用断裁機の製造・販売を開始。1949年にはハイデルベルグ社とパートナーシップを結び、1951年に開催された第1回DRUPA展に参加。その後の、磁気テープ制御の断裁機、断裁システムなど時代を代表する製品を相次

いで市場へ投入。近年では精密断裁に欠かせない特殊なオプション装置、自動断裁システム機、フリップレスデータを活かすコンピュータなど、時代のニーズに応える製品開発に注力している。EU域外への輸出を含めた今日までの総出荷台数は15万台以上に上り、世界170カ国に配した200カ所の販売・サービス拠点から顧客サポートを行っている。

POLAR MOHR
POLAR断裁機が日本に初めて上陸してから65年、ハイデルベルグ・ジャパン(株)では、今年8月よりアナバーサーモデルに限定した特別キャンペーンを実施している。